

走錨に注意！

2021年8月、八戸港外にて錨泊をしていた貨物船（39,910トン）が走錨し、浅瀬に乗揚げ、さらに船体が断裂する大規模な海難が発生しました。



走錨は、浅瀬などへの**乗揚げ海難**や、防波堤などへの**衝突海難**を引き起こす原因となります。

走錨事故防止に役立つ情報



走錨事故防止ポータルサイト

（海上保安庁交通部航行安全課）

<https://www.kaiho.mlit.go.jp/mission/kaiyoukoutsu/soubyo.html>

走錨事故防止に役立つ以下のような情報を掲載しています。

- ・台風進路図、外洋波浪予想図
- ・東京湾、伊勢湾、瀬戸内海の錨泊船舶の状況図
- ・灯台等で観測した風向・風速等に関する情報
- ・投揚錨作業と事故防止、台風を錨泊避航した状況等、船員教育に役立つ動画情報 等々

！ 事故発生時には、国際VHF、118番等により、最寄りの海上保安庁の事務所へ連絡ください。

八戸港での走錨対策

重要 八戸港の特徴

港口が北に開いているため、北方向の風浪・うねりが防波堤を超えて侵入してきます。

また、低気圧が八戸港の南側を通過する際には、東寄りの風が強まります。

重要 GPS・AIS・レーダー・ECDIS等の活用

自船及び周囲の船舶の錨泊状況（振れ回り運動、船位、船速等）の監視、気象海象の確認、無線の聴取を行い、適切な守錨当直を実施してください。

重要 主機関・スラスターの併用

強風等の場合、錨だけで船位を保持するのは困難です。必ず、主機関・スラスターを直ちに使用できる状態にしてください。

また、走錨の可能性がある場合には、主機関・スラスターを使用して、船首を風に立て、船位を保持してください。

ポイント 沖に避難して時間調整！！！！

八戸の海域の底質は、**砂地**です！

気象・海象の条件次第では、錨泊地として適さない場合があります。

走錨しだしたら、止まらないという考え方をもち、アンカーを揚げて、沖に避難し、**時間調整（ドリフト）**する等の対応を検討することも必要です。

